



開催セミナー	学部 FD/SD 推進ワーキンググループ会議 「アクティブラーニングとその実践」
日時	2016年2月3日(水) 15:30～17:00
場所	10507 中会議室 (10号館5階)
参加者	本学教職員 18名 (教員 11名、職員 7名)
内容	<p>委員間の議論をより活発にし、各学部・センターがよりスピード感のある教育改革・改善を進められるよう、副学部長クラスで構成する「学部 FD/SD 推進ワーキンググループ」では、通常の会議に「勉強会」の要素を取り入れる試みを行った(7月・1月・2月)。</p> <p>2月のワーキングでは、F工場の協力のもと、アクティブラーニング型授業の導入に活用できるアイスブレイクの事例を共有・実践する場を設けた。</p> <p>1. 話題提供 F工場のこれまで行ってきたワーク設計や授業設計支援事例とその効果について紹介があった。</p> <p>2. ワークショップ：アイスブレイクの実践 ワーキングメンバーが「ファシリテーター役」と「学生役」になりきり、「共通点グランドスラム」「3つ選んで自己紹介」の2つのアイスブレイクを体験した。</p> <p>共通の体験をしたことで、委員間の距離が縮まったと同時に、「アクティブラーニング」や「ファシリテーション」といった語彙を共有できたことは、今後議論を進めていくうえで大きな前進となった。</p>

開催セミナー	第2回理系英語講義 FD 企画
日時	2016年2月17日(水) 10:00～11:20
場所	12号館 12403 教室
参加者	本学教職員 29名 (教員 20名、職員 9名)
内容	<p>グローバル人材育成推進事業 GSC/ECC プロジェクトチームの呼びかけで、理系3学部での英語による専門教育の拡充を視野に、外国語学部の知見を活用し学部横断で情報共有を図る理系英語講義 FD 企画が開催された。</p> <p>第1部 英語教育の変遷と理系3学部の英語関連講義の紹介 【報告者】桜井延子(外国語学部准教授)/高木征弘(理学部准教授)/水口充(コンピュータ理工学部教授)/黒坂光(総合生命科学部教授)</p> <p>外国語学部の桜井准教授より、現在の大学生が中学・高校で受けてきた英語教育が、教員が受けてきた英語教育と異なることについて、過去40年間の英語教授法の変遷や教科書比較などから説明された。その後、理系3学部の教員から各学部で実践している理系英語講義科目について、受講学生の反応なども交えて紹介された。</p> <p>第2部 学部横断グループディスカッション 「理系学生が4年間で身につけるべき英語力とは何か」</p> <p>外国語学部と理系3学部の教員でグループを構成してディスカッションを行ない、学生のモチベーション維持のために、TOEIC 高スコア取得や科学論文を読みこなすなど、専攻分野や卒業後の進路に応じた具体的な目標の検討が重要であることが確認された。</p>

参加した委員の声より

「あまり話したことがない先生方と一緒にテーブルの空気が、アイスブレイクでとてもあたたかくなった」や、はじめは参加体験型のワーキングに少し消極的だった委員も「演習や、学生に主体的に意見を出したり、学んでもらうきっかけとして使えと思った」といった前向きな声が寄せられ、「こういった研修を各学部の教員にも受けてもらえるような仕掛けをつくってほしい」との要望もあった。

参加した教職員の声より

「現在の学生の英語力(受けてきた英語教育)の背景がわかった」「外国語学部から学ばせていただけることが多くあった」「他学部の取組状況を知ることができた」などの声が寄せられた。終了後も会場に残って意見交換をする様子が見られ、理系学生への英語教育の課題を学部横断で考える良い機会になった。

e-Learning を活用した授業で TOEIC の得点 UP!

今年1月、本学1・2年次生全員および3・4年次生の一部を対象に TOEIC 試験が実施され、総合生命科学部3年次生の多くがスコアを伸ばしました。

同学部では3年次開講科目「科学英語Ⅲ」等で e-Learning 教材「スーパー英語」を毎回活用しており、その成果が表れているようです(図1)。本学理系3学部のグローバル・サイエンス・コース(GSC)の取組みのひとつとして導入した「スーパー英語」は、全学の学生・教職員が利用できます。学生諸君の自学習にはもちろん、教職員の皆さんも授業やご自身の英語力向上に「スーパー英語」を活用してみたいはいかがでしょうか。

スーパー英語の URL <https://senglish.kyoto-su.ac.jp/ac2/mem/home/> 学認でログイン!

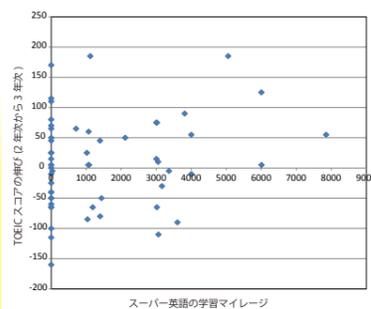


図1 スーパー英語の利用時間と TOEIC の得点
※3000マイル以上取り組んだ学生の成績向上が見取れます。

CERADES News Vol.7 2016年3月発行
編集/発行 京都産業大学教育支援研究開発センター
〒603-8555 京都市北区上賀茂本山 Tel:(075)705-1729
mail:kyoiku-shien-center@star.kyoto-su.ac.jp URL:http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/approach/excellence/

京都産業大学 教育支援研究開発センターニュース
CERADES News

～「むすんで、うみだす。」これからの授業 STYLE～

Mar. 2016
Vol. 7



燦(SAN) presents
京産共創プロジェクトIV「シラバス論争—The First Mission—」

LCS からのメッセージ

こんにちは、ラーニングcommons学生スタッフ(以下、LCS)4年次生一同です。

LCSは学生がチームで考え、学び、相互に刺激を与えて成長するための「共創空間」として作られた雄飛館ラーニングcommonsを大学側と協力して運営しています。学習環境の整備、学内外の来館者への案内、イベントの企画・運営等の活動を行っています。

私たちは卒業しますが、在学生の皆さんはこれからの学生生活で専門的な知識を学び、多くの人と出会い、様々な経験を積み重ねていくものと思います。皆さんがそれぞれの学生生活を過ごす際、雄飛館ラーニングcommonsを利用していただければ幸いです。LCS一同心よりお待ちしております。在学生の皆さん、京都産業大学で大切な思い出を創って行って下さい。

ラーニングcommons学生スタッフ4年次より
(文責 経営学部4年次 伊藤大空)



雄飛館ラーニングcommons
マスコットキャラクター



LCSメンバー

Contents

p2 学生・教員・職員で考える理想のシラバス
燦(SAN) presents 京産共創プロジェクトIV
「シラバス論争—The First Mission—」開催

p3 学生の「前のめり」は、F工場にご相談下さい!
学生の主体性を引き出す授業実現のための学内支援の取組

p4 FD 活動の推進 —さらなる教育の進化に向けて—

- ・学部 FD/SD 推進ワーキンググループ会議
「アクティブラーニングとその実践」
- ・第2回理系英語講義 FD 企画

e-Learning を活用した授業で TOEIC の得点 UP!

CERADES News は、京都産業大学の特色ある教育・学習の実践事例を紹介することを目的とし、企画・取材・デザイン等の全てをセラデススタッフで製作している刊行物です。
CERADES(セラデス)は、教育支援研究開発センターの英語名称 Center for Research and Development for Educational Support の略称です。

学生・教員・職員で考える理想のシラバス

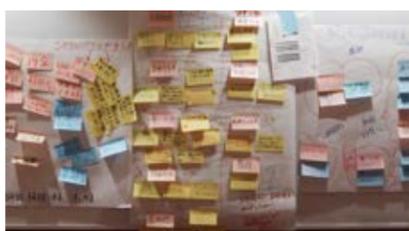
燦(SAN) presents 京産共創プロジェクト IV

「シラバス論争 —The First Mission—」開催



京都産業大学 学生 FD スタッフ AC 燦
マスコットキャラクター
SUN ちゃん

「学生はシラバスに何を求める?」「教員はシラバスで何を伝えようとしている?」
2016年1月8日、シラバスの今後のあり方を探ろうと、本学の学生FDスタッフ燦(SAN)が学生・教員・職員の三者で話し合う京産共創プロジェクト*を開催しました。学生が授業を選ぶ際に参考にしているシラバスの項目や、教職員が学生にぜひ見てほしいシラバスの項目について参加者が意見交換を行う中、「ナンバリングを知らなかった」、「身につく力は分かりにくい」などの意見も出され、シラバスをどう改善すれば良いかアイデアの共有がおこなわれました。



*京産共創プロジェクトは、京都産業大学をより良くしていくために、学生・教員・職員の三者で集まり、意見交換を行う場で、今回で4度目の開催です。

シラバス論争に参加しました!

教学センター岡田課長よりコメントをいただきました

教学センターは6名の職員が参加しました。全体発表では「ナンバリング(下記参照)」が話題になりました。参加学生の殆どがナンバリングを知らないと知り、教学センター一同、大変ショックを受け、対策の必要性を痛感しました。今後は、京産共創を受け、学生が科目の領域や難度を活かした履修計画ができるよう、カタログ機能を重視したコンパクト版シラバスをPDFで提供します。

ナンバリング

ナンバリングは、科目の位置づけを一目で確認するためのもので、シラバスの左上に、アルファベット5文字と3桁の数字で示されています。アルファベットは科目の属する学問領域を示し、数字は科目の難度を示しています。

「授業の到達目標」と「身につく力」

各学部の人材育成目標でもある「学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)と、当該科目での学びが、どう関連しているのかを示しています。学生には、自身の学びの状態を振り返り、どのように強みを伸ばすか・弱みを和らげるかを考え、新たに学ぶべき科目を決める際の参考に頂けるようガイダンスを行っています。



先生方へ

「本気で学ぼうとする学生に向けて、シラバスを書いてください」「たくさん書くほど学生は読まないよ」と嘆かれる先生方に、教学センターがいつも発しているメッセージです。学生に自学習についてご助言頂く際は、「事前事後学習/教材欄」を利用するなど、学生にシラバスの徹底活用を促していただければと思います。

学生の主体性を引き出す授業実現のための学内支援の取組

学生の「前のめり」は、F工房にご相談下さい!

F工房の活動

F工房では、「受講生の積極性を高めたい」「ゼミをもっと活発にしたい」「授業にグループワークを取り入れたい」…そんな学生達の「前のめり」を引き出したい先生方の相談にお応えします。個別にお話を伺い意見を交換しながら、学生の主体性を引き出したいとお考えの先生方のサポートを行っています

F工房にできること

対象：本学教職員(非常勤講師を含む)及び学生

① 学生ファシリテータ(学ファシ*)の派遣

F工房に登録している学ファシを、ご指定の授業等に派遣し、授業内のアイスブレイク**や、ワークの運営を支援します。

② ワーク設計または設計補助

授業内で学生の主体的な学び、参画意欲を引き出すグループワークやペアワーク等の設計または、既存のワークの改善等を行っています。また、アクティブラーニング型授業**の運営ノウハウも教材としてまとめているので、ぜひご相談ください!

- *1 学ファシって? ⇒ 研修を受け、授業や課外活動においてグループ作業等の円滑な進行を支援する学生ボランティアです。
- *2 アイスブレイクって? ⇒ 受講生同士の緊張をほぐすためのワークなど。初回授業における自己紹介ワークの導入などが有効です。
- *3 アクティブラーニング型授業って? ⇒ 講義を「聴く」だけでなく、書く・話す・発表するなどの過程を含んだ授業のことを指します。

利用者の声

アイスブレイクのおかげで、クラス内に和気あいあいとした雰囲気ができ、一人の脱落者も出さず授業を終えることができました。(共通教育言語科目担当教員)



講義科目でテーマに関する問いを投げかけて議論する時間を取ることで、受講生のテーマに対する関心を高めることができました。(文化学部教員)



F工房の支援事例

事例1

2016年1月13日 法学部法政策学科
「法政策基礎リサーチ」合同ポスターセッション

研修を受けた学ファシが、授業支援を行うチューデント・アシスタント(SA)として授業運営を支援しました。他のキャリア形成支援教育科目や初年次科目等で学ファシとして活動した経験を活かし、受講生同士の話し合いやポスター発表の支援で活躍しました。



事例2

2015年3月30日 理学部主催 新入生対象入学前教育
「自己の探求・理学の探求プログラム」

新入生がお互いを知り大学生活に馴染むことができるようになることを目的とした「自己の探求」プログラムの開発に携わりました。教職員や学生とともに、グループワークの内容検討や改善を行いました。

雄飛館ラーニング commonsでは、アクティブラーニング型授業やイベントを実施することができます!



F工房では、ニーズに合った支援を提供するため、事前のご相談・お打合せが必要です。まずはご来室(1号館1階)・メール・電話にてお気軽にお問い合わせ下さい。

電話：075-705-1963(内線2341) メール：ksu-f-aciligator@star.kyoto-su.ac.jp 開室時間：月～金 8:45-16:30